

東京の歴史建物視察

青木繁
保存会

小谷家住宅公開へ向け

館山

明治期の洋画家、青木繁が画学生時代に滞在した館山市の小谷家住宅（同市指定文化財）の保存を目指す「青木繁『海の幸』誕生の家と記念碑を保存する会」（嶋田博信会長）はこのほど、東京の歴史建物バスツアーを行った。会員ら25人が参加。先進事例として、新宿区立中村舞（つね）アトリエ記念館と旧安田楠雄邸庭園（東京都指定名勝）を訪問した。

一般会では、市のふるさと納税制度を活用し、全国の著名な画家が組織するNPO法人青木繁「海の幸」会とともに募金活動を展開。今後、2か年の修理復元工事を経て一般公開を目指している。館山の転地療養をきっかけに画家となった中村舞は、新宿中村屋の相馬愛蔵夫妻から支援を受けて活躍した。大正期に新宿区下落合に建立した舞のアトリエは、住民による長い保存運動の末、新宿区によって新築復元され、今春から記念館として公開が始まっている。館内はイーゼルや調度品と複製画の展示で当時の雰囲気が再現され、映像で舞の生涯や画業を紹介している。奇しくも館山中村屋は、昭和初期に新宿中村屋から暖簾（のれん）分けした老舗であり、本店喫茶室には舞が布良で描いた「海辺の村」（白

壁の家）の複製画が常設されている。

一方、文京区千駄木の



中村記念アトリエで担当者の話を聞く参加者＝東京

旧安田邸は大正期建立の近代和風建築として価値が高く、現在は公益財団法人日本ナショナルトラストに寄贈されている。週2日の公開だが、今回は貸切の特別見学として企画され、管理運営を担っているNPO法人文

京歴史建物の活用を考える会（通称たてもの応援団）理事の多見貞子さんから講義を受けた。市民ボランティア80人が、建物や庭園の行き届いた清掃管理や館内ガイドなどに活躍。きめ細かい工夫や季節ごとに趣向をこらした企画が好評で、リピーター来場者も多いという。

視察を終えた参加者は、「小谷家住宅の公開後のビジョンを具体的に描くためのヒントを多く

得た」としている。

房日新聞
2013年(平成25年)12月18日